全日電工連

今月の主な紙面

●第35回電気工事業全国大会 ‥1～7面
●委員会等報告 ……8面
●定期講習会場一覧 ……9面
●工組だより ……11面
●青年部活動報告 ……12面

https://www.znd.or.jp/
新聞はこちらからもご覧いただけます。

全日本電気工事業工業組合連合会　〒105-0014　東京都港区芝2-9-11　全日電工連会館1F　TEL 03(5232)5861　FAX 03(5232)6855　E-mail zennichi@znd.or.jp

人材確保育成に必要な事業展開

第35回 電気工事業全国大会

進化し続ける組合を目指す

福島県で初開催

全日本電気工事業工業組合連合会(米沢寛会長)主催、東北七県電気工事組合連合会（平野喜嗣理事長）主管による第35回電気工事業全国大会が10月25日・26日、福島県福島市のJRA福島競馬場と福島市音楽堂の2会場で開催された。東北地区での開催は4回目で福島県は初開催。

東日本大震災後、復旧・復興に向けて歩み続けてきた福島県を訪れた全国からの参加者は1600名。来場できない組合員に向けたユーチューブLIVE配信も行った。

大会のメインテーマは『持続可能な社会』をつくる　強く頼もしい電気工事業への挑戦！」。サブテーマに「業界の未来は『ひとつ、ひとつ、実現する』ここ、ふくしまから#発信・発進、いざ、はっしん！」を掲げ、意見交換会・組合活性化研修会と式典を行った。

福島市音楽堂で開催された式典で米沢会長は、2011年3月11日に発生した東日本大震災による壊滅的な状況から、復興に努めている方々に敬意を表した後、「この復興の一助である処理水放出について、近隣諸国が科学的根拠のない発言を繰り返していることに憤りを感じている。電気を生業とするわれわれが、今日、この福島の地に集まった。近隣諸国の風評に対して、正しい発言をわれわれだからこそできると思っている。皆さんと一緒に心を一つにしていきたい」と述べた。

電気工事業界の課題については、「人材確保育成の総合的な対応が求められている。さらに現場でのデジタル技術の活用、2024年4月からの時間外労働の上限規制の適用など新しい経営の基盤を固めなければならない」として組合員に必要とされる事業を展開していく方針を述べた。

また、エネルギーの安全保障について「原発再稼働についてわれわれは日本の将来を見据え早急に対処しなければならない。再稼働を提言していくためにも、本日の全国大会は大きな意義がある。またとない機会でもあり福島第一原子力発電所の廃炉作業の状況を視察して、知見を深める機会にしてほしい」とあいさつした。

式典では、来賓祝辞、組合役員功労表彰、優良事業工組表彰、優良事業工組・青年部優良活動事業発表を実施。その後、全国から集まった参加者全員の総意として大会決議を採択した。

また2024(令和6)年に開催される第5回電気工事技能競技全国大会の概要が説明された。

開催日時は、学科競技が2024（令和6）年11月27日・実技競技が11月28日で、会場は神奈川県横浜市の横浜アリーナ。

出場選手枠は、1電工組1名（48名）・ブロック加算権利枠10名・女性の部9名・高校生の部9名の最大76名が各部門の競技課題で競い合うことが報告された。

2025（令和7）年に開催される第36回電気工事業全国大会開催地（北海道）の紹介とPRも行われた。

10月25日にはテーマに基づく意見交換会を実施。540名の参加者が全日電工連の重点的な取り組みと連動した3つのテーマに基づき意見を交わした。

式典当日の午前中には組合活性化研修会を実施。各工組が行っている特色ある事業を紹介して全国へ水平展開を図った。

今大会は、会場としては全国でも初めて競馬場を利用しての開催。メーカーや団体が製品展示や情報提供を行ったほか、常磐地域の水産品を集めたマルシェも開催された。

アトラクションは、盛岡さんさ踊り、相馬野馬追の馬と騎馬武者の来場、スパリゾートハワイアンズのフラガールによるフラダンスなど東北の魅力あふれる文化が紹介された。

式典後に行われた交流会は、競馬場の大駐車場を利用して実施。東北各地の名物料理がキッチンカーや屋台で提供されるなど記憶に残る充実した大会となった（組合活性化研修会・大会式典などの詳細は2～7面に掲載。大会当日の模様は、YouTubeで12月まで配信される予定）。

全国から1600名が参加した東北・福島大会

第35回 全国大会

強く頼もしい電気工事業への挑戦！

大会式典

業界の未来は「ひとつ、ひとつ、実現する」ここ、ふくしまから#発信・発進、いざ、はっしん！

開会を宣言する
東北七県電気工事組合連合会
平野 理事長

大会式典は、主管である東北七県電気工事組合連合会の平野喜嗣理事長が、「開催地の福島県では、組合員・青年部員・女性部員一丸となって、『今』と『これから』の福島県を感じられる大会となるよう思いを込め準備を進めてきた。今大会が、全日電工連の組合史に刻まれる新たな1ページとなることを願い、皆様方の想いを形に変え、幸せな大会となることを願う」との開会宣言で幕を開けた。

国歌二唱、物故者への黙祷に続き、主催者を代表して米沢会長が今後の全日電工連の取り組みや方針などを述べた。

来賓祝辞では、経済産業省の殿木文明大臣官房審議官（産業保安担当）が「電気保安の要を担われている電気保安人材の減少、高齢化にしっかり対応する必要がある。その一環として、今年度から電気工事試験の試験会場を倍増させるとともに、受験者の都合に合わせた試験日、試験会場の選択を可能としたところだ。また近年の状況として受け止めなくてはならないことは気候変動等による災害の激甚化、頻発化である。このような状況のもと、電気工事士の果たす役割はますます重要となってきている。貴連合会では、全国500以上の自治体と災害時復旧協定を締結し平時から地域との関係強固を図るとともに、有事の際の組合間相互の支援体制も構築しており、このような取り組みの更なる進化を期待している。先ほど米沢会長から震災の復興について心強い言葉、力強い言葉を頂いたが、私自身、前職、前々職と東北福島復興を担当する部署に在籍していたので、とりわけ嬉しく思った。経済産業省としても貴連合会の積極的な参加、取り組みに心より感謝申し上げる」と述べた。

国土交通省の沖川弘毅不動産・建設経済局建設市場整備課専門工事業・建設関連業振興室長は「建設産業は社会整備の担い手であると同時に地域の守り手としても大きな役割を担っている。中でも、電気設備は国民生活や経済活動において欠くことのできないライフラインだ。人口減少、少子高齢化という厳しい局面ではあるが、こうした中で必要な担い手をしっかりと確保、育成をして将来にわたって持続的に発展していける産業にしていくことが重要だ。国土交通省としても、建設産業で働く方々が安心して働けるよう、そして若い方に多く振り向いてもらえる産業となるように、引き続き安定的かつ持続的な公共投資の確保に努めていく。貴連合会は電気工事技能競技全国大会の開催をはじめ、各種事業を通じて電気工事に携わる人材の確保、育成に積極的に取り組んでいる。引き続きこれらの活動を推進して、建設産業のより一層の発展に寄与されることを期待している。私は復興庁で渡辺復興大臣の秘書官を努めていたことがあり、福島の現状を大臣と一緒に見てきた。復興については地域ごとに様々な事情があるが、それぞれ皆さんが頑張っている姿を私も見させていただいてきた。引き続き応援していきたいと思っており、貴連合会もいろいろ取り組まれているとお聞きしているので、引き続きよろしくお願いしたい」と述べた。

福島県の鈴木正晃副知事は「日頃から電気工事業を通して社会基盤のインフラを支え、国民生活の維持に大きな役割を果たされている皆さまに深く敬意を表する。東日本大震災そして原発事故から12年7か月が経過したが、この間、皆さまをはじめ国内外の方々の暖かいご支援により、インフラの復旧や観光地における賑わいの回復、新たな拠点施設の整備など、福島復興は着実に前進している。

一方で、避難地域の復興再生、廃炉、処理水対策、風評と風化の問題など、福島県は未だ多くの困難を抱えている。さらに近年では全国各地で自然災害が激甚化・頻発化しており、福島県でも甚大な被害が発生した。こうした度重なる災害の対応が喫緊の課題となっており、経済活動や国民生活に欠かすことのできない、電力の安定供給を担う電気工事業の重要性がますます高まっている。大会を契機にお互いの絆をさらに深めていただくとともに、安心安全な暮らしの実現に向けて、より一層お力添えを賜りますようお願い申し上げる。

またこの機会にぜひ、福島の美しい自然や奥深い歴史と伝統文化をはじめ、フルーツ王国福島が誇る豊富な果物をはじめとした美味しい食、国内外で高い評価をいただいている日本酒など福島県の様々な魅力を堪能していただき、復興に向けて力強く歩み続ける福島の今を見て食べて感じていただければ幸いだ。全国各地からこの福島の地においでいただいた事、復興に向けて頑張っている福島県民に何よりの大きな励みになる。心から感謝申し上げる」と述べた。

福島市の田中政幸副市長は「全国各地からお越しいただいた大勢の皆さま、ようこそ福島へ。開催都市を代表し、心より歓迎申し上げる。全国大会の開催にあたり、本市が進めるユニークメニューの取り組みにご協力いただき、式典はこのふくしん夢の音楽堂、交流会は福島競馬場をご活用いただいている。開催都市として、参加される皆さま方の満足度の向上や、本市のイメージアップを図りたいという思いであり、このような特別な会場での開催の運びとなり大変喜ばしく思う。貴連合会は日頃から組合員相互の親睦と連携を図り、技術・技能の研鑽、人材の育成、安全対策の推進などに積極的に取り組み、事業活動を通じて地域住民の生活や地域発展に寄与していただいている。さらに電気工事業に従事する皆さまには、市民生活や経済活動に不可欠な電力インフラを支え、相次ぐ災害時の緊急対応にもご尽力いただいている。ここに深く感謝を申し上げるとともに、深く敬意を表する。貴連合会におかれては、脱炭素社会の実現に貢献する技術力の向上や新技術の習得等に挑み、持続可能な地域社会づくりに邁進していただくことを期待している」と述べた。

東北電力ネットワークの坂本光弘取締役社長は「電気はAIやICT、デジタル化が発展した現在において社会基盤を支える重要な役割を担っており、また、カーボンニュートラルを進める上でも電化の推進は欠かせないものとなっている。しかし昨今、地震、大雨、台風等の自然災害が頻発

ご来賓の方々 祝辞を頂いた

経済産業省
大臣官房審議官（産業保安担当）
殿木 文明 審議官

国土交通省
不動産・建設経済局　建設市場整備課
専門工事業・建設関連業振興室
沖川 弘毅 室長

鈴木 正晃 福島県副知事

田中 政幸 福島市副市長

東北電力ネットワーク株式会社
坂本 光弘 取締役社長

第35回 全国大会

「持続可能な社会」をつくる

化・激甚化しておりここ福島県でも今年の夏には大雨による大規模な浸水被害も発生した。今後も自然災害による被害が想定される一方で人口減少を背景に私ども電力業界においても、対応者が年々減少の傾向にあり災害対応における電気設備の早期復旧にはこれまで以上に貴連合会の皆さまとの連携が必要と考えている。このような状況を踏まえ、先般、東北七県電気工事組合連合会に所属する各県の電気工事組合と東北電力ネットワークは災害時連携協定を締結し、災害復旧における応援体制を構築させていただいた。本協定は電気を使用されているお客様や地域社会から求められている電気設備の早期復旧、レジリエンス強化に応えるための仕組みであり、大変意義があると考えている。今後とも、貴連合会と私どもが一層絆を深めて連携しお客様や社会の期待に応えられるよう取り組んでいきたいと考えており、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げる」と述べた。

全日電工連会長表彰では、組合役員功労表彰として12名が表彰された。

第6回目の実施となる優良事業工組表彰は、京都府電気工事工業組合が金賞を受賞。また、銀賞2工組、銅賞3工組、優良賞と特別賞に各2工組が選ばれた。

大会決議は、「高度技術者育成を図る」「次代の担い手が働きたいと思える業界づくり」「スピード感を持って各種事業を具現化」を安田耕一副会長が表明し、決議文を米沢会長に手渡した。

来年開催される第5回電気工事技能競技全国大会については、技能競技委員会の樋口和宏委員長が開催概要を報告した。

また、令和7年に北海道で開催される第36回電気工事業全国大会の開催地あいさつでは、北海道の役員・組合員・青年部会員が映像とともに北海道をPRして参加を呼び掛けた。

嶋野貞雄副会長は閉会の言葉で「電気工事業を取り巻く環境は、多少の地域間格差はあるものの組合員の努力や熱意が功を奏して、全般的には安定した状況である。生成AIやIoTなどのデジタル技術の活用が急速に進む中、ビジネスチャンスとして捉え、大会決議の通り清いかをベースに真価をお届けしていく」と決意を述べた。

式典後の交流会で、福島県電気工事工業組合の浅川誠吾理事長は「今大会は東北らしさ、福島らしさを全面に出した。魅力が詰まっている地元の食・銘酒・アトラクションを堪能してほしい」とあいさつした。

次回大会(北海道)をPRした小野寺副会長

技能競技全国大会の概要を説明した樋口委員長

大会決議を表明した安田副会長

交流会であいさつする浅川理事長

閉会の辞を述べた嶋野副会長

第36回 電気工事業全国大会の開催を北海道がＰＲ

第５回 電気工事技能競技全国大会は横浜アリーナで開催

大会決議

二〇二一（平成二十三）年三月十一日　十四時四十六分

未曾有の東日本大震災から十二年「被災の地」から「希望の地」へと着実に歩みを進めている。ここ福島県は福島イノベーション・コースト構想による新産業創出など福島の未来を切り拓くチャレンジを続けています。

このたび福島県福島市において『持続可能な社会』をつくる　強く頼もしい電気工事業への挑戦！」をメインテーマに「業界の未来は『ひとつ、ひとつ、実現する』ここ、ふくしまから#（ハッシュタグ）発信・発進、いざ、はっしん！」をサブテーマに掲げ第三十五回電気工事業全国大会を関係の皆様のご協力により開催できましたことを心から感謝申し上げます。

業界の将来を見据えた全日電工連の重点事業の中から「人材確保および育成定着」「現場効率化とDXツールの活用」「時代の変化に対応した組合運営」の三テーマについて広く各界のご意見もいただきながら実行に向けた具体策の討議を致しました。

我々には国民生活や事業環境の基盤である電気を安全安心にお届けする社会的使命が課せられています。

折から脱炭素化社会の実現に向けたGX推進法が成立、GX推進戦略が閣議決定されました。省エネ、再エネや原子力発電等の脱炭素電源への転換などが推し進められます。

資源の乏しい我が国においてエネルギーの安定確保のためエネルギーセキュリティ地球温暖化対策などは業界を挙げての必須の課題であります。

ここに全国から集った組合員、青年部員、女性部員の総意として次の通り決議します。

一　高度技術者育成を図り、安全安心の提供により信頼される街の電気ドクターを目指す

一　デジタル技術を活用した多様で柔軟な働き方の実現により次代の担い手が働きたいと思える業界づくりを目指す

一　持続可能な社会に貢献するために進化し続ける組合を目指し、先端技術や成功事例の情報提供に努め、スピード感を持って各種事業を具現化する

以上、関係行政並びに諸団体、関係企業の一層のご指導ご支援をお願い申し上げ、我々組合員は広く社会の付託に応え時代の変化を先取りし実行する組織と結束を目指すことをここに決議する。

二〇二三年（令和五年）十月二十六日

大会決議を米沢会長(左)に手渡す安田副会長

第35回 全国大会

組合役員功労表彰・優良事業工組表彰

会長表彰

業界・組合への功労者 12名が受賞

組合役員功労表彰は、長年にわたり地域の組合育成強化に尽力し、組合の運営に功績があると認められた方々に贈られるもので、今回の受賞者は12名（左表）。

受賞者を代表して、宮城県電気工事工業組合の前澤博理事長が、表彰状と記念品を米沢会長から受け取った。

第35回　電気工事業全国大会

全日本電気工事業工業組合連合会　会長表彰受賞者（敬称略）

氏名	工組名	事業所名
舘口政悦	岩手県電気工事業工業組合	堀閤電気株式会社
瀬川忠昭	岩手県電気工事業工業組合	有限会社栄電気
深沢公一	秋田県電気工事工業組合	有限会社深沢電装
小野地慎一	秋田県電気工事工業組合	千代田電気工業株式会社
前澤　博	宮城県電気工事工業組合	太平電気株式会社
星野　中	宮城県電気工事工業組合	株式会社栄電社
大沼三也	山形県電気工事工業組合	株式会社三栄電機工業
坂下良行	山形県電気工事工業組合	株式会社シグマ
斉藤善夫	福島県電気工事工業組合	有限会社斉藤電設工業
新田一則	福島県電気工事工業組合	株式会社光電設
中務　浩	新潟県電気工事工業組合	中務商店
原田和広	新潟県電気工事工業組合	株式会社協電舎

米沢会長と前澤理事長（右）

優良事業工組表彰

金賞は京都府工組

優良事業工組表彰で、金賞を受賞したのは京都府工組の『京都電気安全サービス京都調査センターの業務改善』。銀賞は山形県工組山形支部・石川県工組、銅賞は福島県工組福島支部・福井県工組・千葉県工組が受賞。優良賞は岡山県工組女性部・佐賀県工組、特別賞には徳島県工組青年部、熊本県工組が選ばれた。

式典では、金賞を受賞した京都府工組と、第5回青年部会員大会の優良活動発表会で金賞を受賞した北海道工組札幌支部青年部「YouTubeを活用した青年部活動及び業界PR」の事業内容が大会参加者へ発表された。

優良事業表彰は10工組が受賞

第6回　優良事業工組表彰　受賞工組一覧　■：事業改善・改革部門、■：新規事業部門、■：安全部門

	工組	支部／青年部／女性部	事業名
金賞	京都府電気工事工業組合	本部	■京都電気安全サービス京都調査センターの業務改善
銀賞	山形県電気工事工業組合	山形支部	■本会・青年部一体での高校新卒採用活動
	石川県電気工事工業組合	本部	■組合安全衛生大会から始まる安全行動計画実施について
銅賞	福島県電気工事工業組合	福島支部	■リース契約によるＬＥＤ化事業への参画
	福井県電気工事工業組合	本部	■個別企業説明会
	千葉県電気工事工業組合	本部	■支部長研修会による支部長の理解とやる気の増進
優良賞	岡山県電気工事工業組合	女性部	■女性部会における進化トライアル
	佐賀県電気工事業工業組合	本部	■佐賀県電気工事業安全大会の開催
特別賞	徳島県電気工事業工業組合	青年部	■電材卸業者イベントを活用した組合員・青年部員加入促進活動
	熊本県電気工事業工業組合	本部	■熊本市職業訓練センターとタイアップした県工組主体の短期大学校の開設

優良事業工組表彰の受賞工組
（左から石川県、山形県、米沢会長、京都府、福島県、福井県、千葉県）

金賞事業を発表する京都電気安全サービス京都調査センター
楠元正博センター長

青年部会員大会の金賞事業を発表する
北海道工組札幌支部　山崎高裕総務委員長

第35回 全国大会

意　見　交　換　会

魅力ある業界づくりを目指して討論

あいさつする
米沢会長

趣旨説明する
紺野福島青年部会長

閉会の辞を述べる
植田議長

10月25日、JRA福島競馬場で意見交換会が開催された。

働き方改革のなかで、職場環境を整えることで入職者を増やし、離職者を減らすこと、作業現場のDX化に取り組むことで業務の効率化を図り、人手不足を補うこと、女性が活躍できる環境を整え女性技術者・技能者を増やすことなど、次なるステージに向けた行動力が必要である。

また、組合員を支援するための電工組の強化もこれから益々重要度を増してくる。各電工組では、「組織強化」「財政安定化」「組合員支援」など大きな課題が山積している。

あいさつに立った米沢会長は「今回の意見交換会のテーマは、われわれの業界でスピード感を持って解決しなければならない大変重要なテーマだ。今日の意見交換が皆さんにとってもわれわれの業界にとっても大きなヒントとなることを期待している。自身のこと、仕事のことでも何でもよいので、良い時間を共有して有益なものを持ち帰ってほしい」と参加者に呼びかけた。

今回の意見交換会は

①人材確保へのアプローチ、採用後の育成方法

②DXツールの導入による今後の展開

③組合の特徴、メリットを再確認して必要な組合運営方法の検討

を中心テーマとして実施することを福島県電気工事工業組合青年部の紺野浩二会長が説明を行い、参加者はテーマごとに振り分けられたテーブルで意見交換に臨んだ。

意見交換会は、

・テーマA
〝どうする〟人材確保及び人材育成・定着
「人手不足の時代に対応する人材、人財について考える」

・テーマB
〝どうする〟業務の効率化とDXツールの活用
「働き方改革に対応する業務の効率化について考える」

・テーマC
〝どうする〟組合運営
「時代の変化に対応する組合運営について考える」

の3テーマについて、各地域の情報共有化を目指して活発なディスカッションが行われた。

閉会あいさつで、全日電工連・総合政策会議の植田隆夫議長は「全日電工連の掲げる重点事業「人材確保育成」「DX促進」「電工組支援対策」をテーマに、活発な意見交換をしていただいた。今日の意見交換会の経験と同じテーブルでの人脈は、皆さんの今後の人生の大きな糧となる。本日いただいた意見を基に、魅力ある業界・組織づくりに向け、先端情報や成功事例の提供に努めていくので、一層のご協力をお願いする」と述べた。

10月26日の大会式典では、テーマごとに集約された意見を代表者が発表した（集約された意見は下記参照）。

課題を共有し解決につなげる

テーマA　発表者：新潟県工組青年部　本間 隼人 会長

“どうする”人材確保及び人材育成・定着

～人手不足の時代に対応する人材、人財について考える～

電気工事士が減少することは確実であり、人材確保の対策が急務である。高校生との交流事業は全国で水平展開されており成果が出ているが、次のステップとして小・中学生や親御さんへのアプローチが必要だ。また、女性技術者が不便なく働き続けられる環境を整備すること、他業種からの人材の受け入れも重要であると考えられる。

経営者自らが率先して採用活動に取り組んでいく必要がある。

人材育成・定着の対策としては、とにかく働き方改革と福利厚生充実をすすめることである。高校生の交流事業の中で就職先に求めることは、休みがあるか・福利厚生が充実しているかなど、給与面ではないという結果もあり、ここは割り切って推し進めていく必要がある。

また、育成の道筋の見える化と、若手社員のメンタルフォローが重要である。

テーマB　発表者：青森県工組青年部　山子 泰典 会長

“どうする”業務の効率化とDXツールの活用

～働き方改革に対応する業務の効率化について考える～

「働き方改革」は「休み方改革」ではなく、働く人の幸せを目的としていると思う。働く人の幸せを考え、そして働く人が本当に幸せだと思いながら働ける環境を作ることが重要だ。幸福度向上は多面的に生産性向上に繋がると考えている。

まずは意識の統一、そしてその意識を統一するための学びの機会を社員に提供することが企業と組合の使命ではないか。「幸せ」とは「成長」から生まれるものであり、「成長」とは「学び」と「実践」でしか得られない。

また、電気工事業に従事する経営者自らの意識改革が必要である。経営者がハイパフォーマンスを駆使することで、社員はあらためて自身の働き方を省みるのではないか。

テーマC　発表者：岩手県工組青年部　坂本 拓史 部長

“どうする”組合運営

～時代の変化に対応する組合運営について考える～

次代を担う組織として認識することが重要だ。時代に合わせ変化すべき役割の重要性をしっかりと理解するとともに、業界の未来を見据え、将来を担う後継者の育成を行い意識の共有を図る。柔軟に変化していくことは重要かつ職務であると考え、後継者に対してもその認識を持つように努めることが必要だ。

新規組合加入者促進については、まずはわれわれ組合員が組合のメリットを十分に把握しなければならない。「全国的な同業他社との繋がりができる」「業界の情報をいち早く得られる」「各種講習会の受講・研修会に参加できる」「電気工事に特化した保険やDXサービスに安価で加入できる」など、新規加入者にしっかりと伝えて理解してもらうことが大切だ。

また、変化する時代の波に乗るため、常に最新の情報・知識を学び個々の成長に繋げることも重要だ。個々の成長は組織の成長であり、自社の成長にも繋がる事を理解しなければならない。時代は常に変化し続けているが、変わらず明確なことがある。

自社の繁栄なくして組織の繁栄はなし！組合の繁栄なくして業界の発展はなし！

第35回 全国大会

組合活性化研修会

全国工組の実施事業を紹介

全国大会で実施している優良事業工組表彰は今回で第6回目となる。

過去に発表された全国各地の工組・支部・青年部の素晴らしい事業が広く周知され、実際に模範となり、他工組等で事業展開される事例も多くなってきている。

今大会でも、工組財源確保の参考となる事業および情報提供の機会にする場として、組合活性化研修会が開催された。

組織政策委員会の堀口繁委員長は「組織運営の安定には、組合運営の成果が出せる体制の構築が必要であり、組織体制の改革、組合後継者育成対策は柔軟な対応が求められている。組合存在価値の高揚と工組財源確保について、今後の事業展開の参考にしていただきたく、表彰制度に応募された事業の中から6事業、全日電工連の重点事業の1事業、合計7事業を発表する。今後の組合事業と青年部・女性部活動の企画立案に役立ていただきたい」と趣旨説明した。

「安全」「人材確保・育成」「組合活性化」「業界DX化」の4ジャンルに分けて7事業の事例を発表。各ジャンルの発表後に質疑応答も行った。

趣旨説明する
堀口組織政策委員長

閉会の辞を述べる髙野副会長

高野憲一郎副会長は閉会の辞で「組合事業の活性化とその経営管理は組合にとって重要な課題だ。工組財源をどのように確保していくのか、現状および将来を見据えた組織体制はどうするのか、工組と一緒になって考えていきたい。新たな視点で組合財政を捉え、組織体制の変革に資する研修会や成功事例の情報発信を通じて、工業組合の役に立つ施策を検討していく」と述べた。

今回の優良事業工組表彰にエントリーした全53事業と昨年度に開催した第5回青年部優良活動発表会で報告された10事例を収録した冊子は、大会当日に参加者に配布された。

組合活性化研修会　事例発表事業

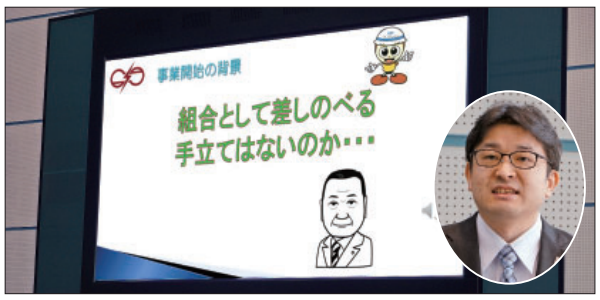
ジャンル	組合	支部／青年部／女性部	事　業　名
安全	石川県	本部	組合安全衛生大会から始まる安全行動計画実施について
人材確保 人材育成	福井県	本部	個別企業説明会
	山形県	山形支部	本会・青年部一体での高校新卒採用活動
組合活性化	岡山県	女性部	女性部会における進化トライアル
	千葉県	本部	支部長研修会による支部長の理解とやる気の増進
	埼玉県	本部	Web申込システムの代行申請
業界DX化	全 日 電 工 連		組合員向けＤＸアプリ『DEN－UP』

事例発表後の質疑応答の様子

新たな組合運営の気づきとなる事例を情報発信

（円内は発表者）

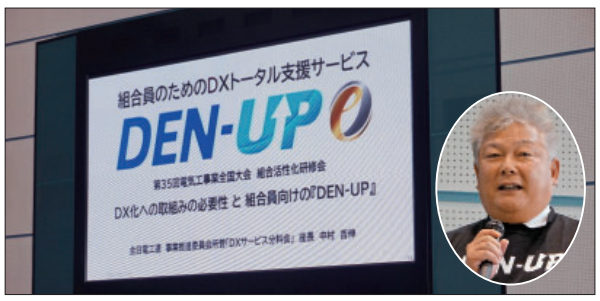
千葉県　植草宏介副理事長



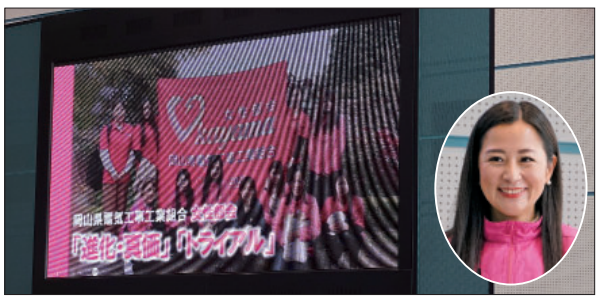
埼玉県　西川潤係長

山形県山形支部　伊藤誠技術・安全委員長

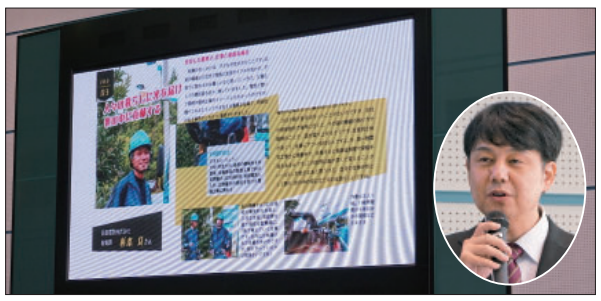
石川県　田中祐喜男安全部長



全日電工連ＤＸサービス分科会　中村吉伸座長



岡山県　戸川奈加女性部会長


福井県　技術部電設課　武部基裕課長補佐

第35回 全国大会

フォトアルバム

大会を支えた多くのスタッフ

作田謙太郎大会実行委員長が
お礼の挨拶

乾杯の挨拶をするパナソニック株式会社
エレクトリックワークス社大瀧清社長

フラガールやさんさ踊り、相馬野馬追騎馬武者がおもてなし

出展企業が新商品や情報提供

にぎわったキッチンカーとマルシェ

全国から東北・福島大会に集まった仲間